

# 石川県とその周辺の地震活動（令和2年11月）

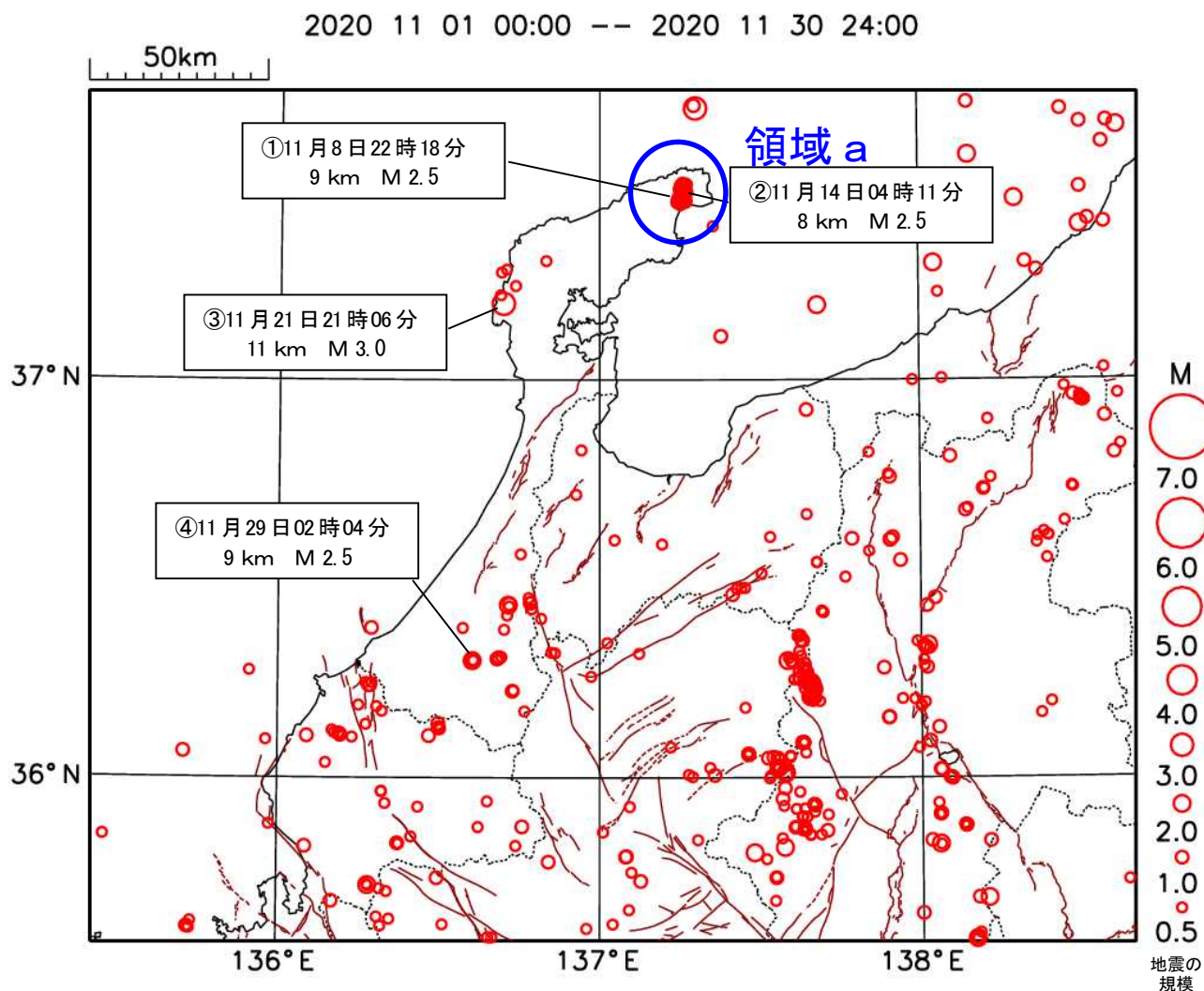
令和2年12月8日  
金沢地方気象台

## 1. 概況

令和2年（2020年）11月に石川県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は4回でした。

発生した震度1以上の地震のすべては石川県内を震源とする地震で地殻内で発生しました。能登半島（領域a）では8日22時18分及び14日04時11分の地震（いずれもM2.5、最大震度1）が発生するなど、微小な地震活動が見られています（第2図参照）

## 2. 震央分布図



第1図 令和2年(2020年)11月の深さ0~30km、M0.5以上の地震の震央分布図  
(図の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す)

### 3. 令和2年（2020年）11月に石川県内で震度1以上を観測した地震の表

石川県で震度1以上を観測した地震について、石川県内の各地の震度を掲載しています。

\*の付いた観測点は石川県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点、他は気象庁の観測点です。

地震の発生日時	震源地名	緯度	経度	深さ	地震の規模
① 11月8日22時18分	石川県能登地方	37° 28.7' N	137° 15.5' E	9 km	M 2.5
震度1 : 珠洲市正院町*, 珠洲市大谷町*					
② 11月14日04時11分	石川県能登地方	37° 28.2' N	137° 15.8' E	8 km	M 2.5
震度1 : 珠洲市三崎町, 珠洲市正院町*					
③ 11月21日21時06分	石川県能登地方	37° 11.4' N	137° 14.9' E	11 km	M 3.0
震度1 : 志賀町香能*					
④ 11月29日02時04分	石川県加賀地方	36° 17.6' N	136° 36.2' E	9 km	M 2.5
震度2 : 白山市別宮町*					

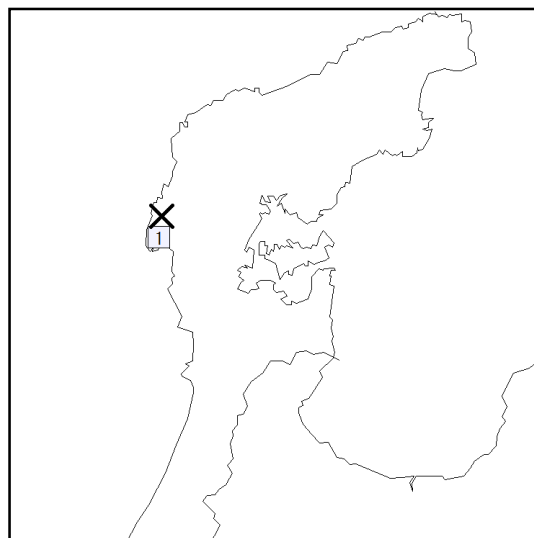
### 4. 令和2年（2020年）11月に石川県内で震度1以上を観測した地震の震央と市町の震度分布図



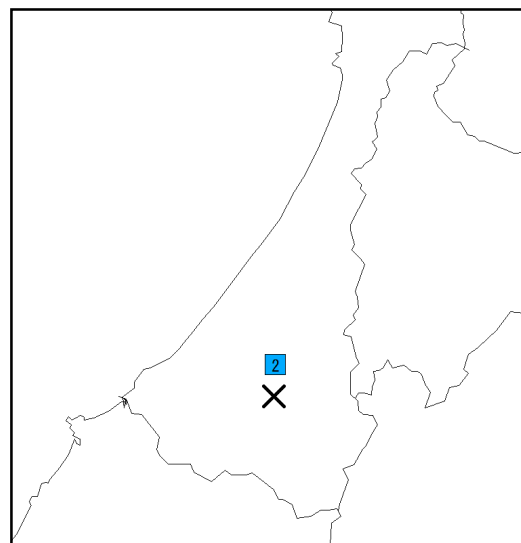
①11月8日22時18分の石川県能登地方の地震  
(石川県周辺)



②11月14日04時11分の石川県能登地方の地震  
(石川県周辺)



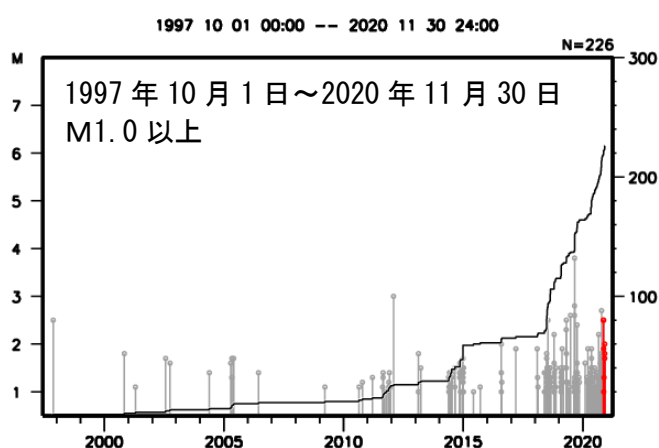
③11月21日21時06分の石川県能登地方の地震  
(石川県周辺)



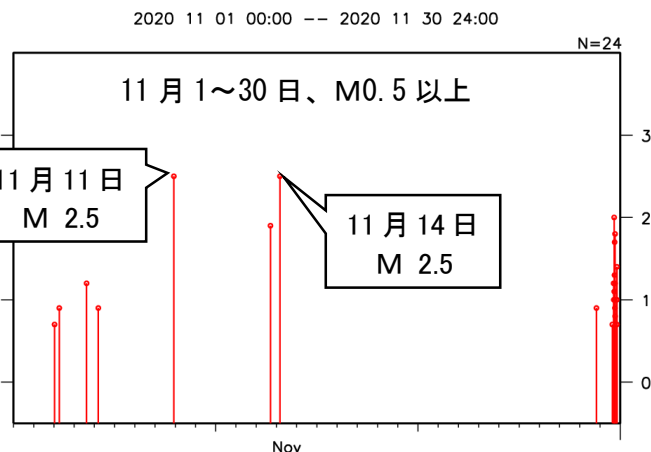
④11月29日02時04分の石川県加賀地方の地震  
(石川県周辺)



## 5. 石川県能登地方の地震（2. 震央分布図中の領域 a 内）の地震活動



第2図 地震活動経過図及び、地震回数積算図



第3図 地震活動経過図

石川県能登地方（第1図の領域 a）を震源とした地震が24回発生し、震度1以上を観測した地震は2回でした（上右図）。

1997年10月以降の活動を見ると、領域 a 内では2018年頃からまとまった地震活動が見られます（上左図）。

## 5. 過去1年間に石川県内で震度1以上を観測した震度別地震回数表

年	2020年												合計
	2019年	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
震度1	0	0	1	5	1	3	0	0	0	4	1	3	18
震度2	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	4
震度3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3
震度4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
震度5弱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
震度5強	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	0	0	1	8	2	4	0	0	0	6	1	4	26

この資料は速報であり、後日の調査により修正することがあります。

※この資料に関する問い合わせ先

金沢地方気象台 地震担当 電話番号 076-260-1462

金沢地方気象台ホームページにも掲載しています。

アドレス <https://www.jma-net.go.jp/kanazawa/gaikyo/index.html>

※本資料中のデータについて

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※2020年4月18日から10月23日の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られたことがあります。

## 地震の起きるしくみ

### 1. プレートテクトニクス

地震は地下で起きる岩盤の「ずれ」により発生する現象です。では、なぜこのような現象が起きるのでしょうか。硬い物に何らかの力がかかり、それに耐えられなくなると、ひびが入ります。地下でも同じように、岩盤に力がかかっており、それに耐えられなくなったときに地震が起こる（岩盤がずれる）のです。

では、どうして地下に力がかかっているのでしょうか。これは、「プレートテクトニクス」という説で説明されます。

地球は、中心から、核（内核、外核）、マントル（下部マントル、上部マントル）、地殻という層構造になっていると考えられています。このうち「地殻」と上部マントルの地殻に近いところは硬い板状の岩盤となっており、これを「プレート」と呼びます。地球の表面は十数枚のプレートに覆われています（図1：地球の内部構造）。

プレートは、地球内部で対流しているマントルの上に乗っています。そのため、プレートはごくわずかですが、少しずつ動いています。そして、プレートどうしがぶつかったり、すれ違ったり、片方のプレートがもう一方のプレートの下に沈み込んだりしています。この、プレートどうしがぶつかっている付近では強い力が働きます。この力により地震が発生するのです（図2：プレート運動の模式図）。

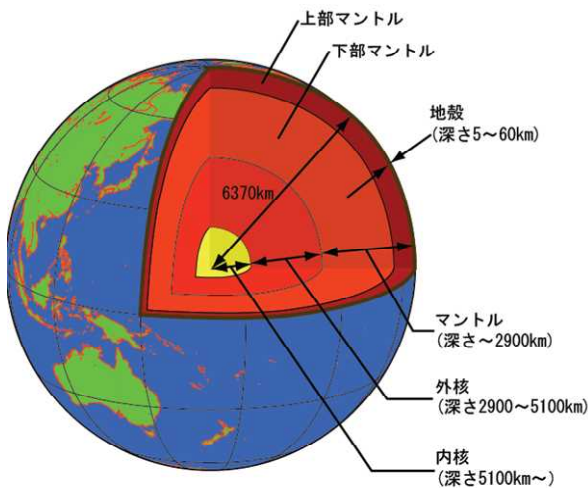


図1 地球の内部構造

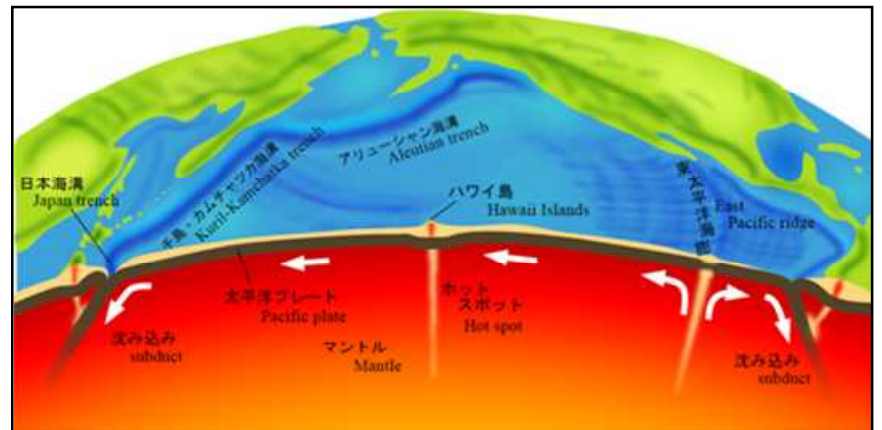


図2 プレート運動の模式図

### 2. 日本周辺で地震の起こる場所

日本周辺では、海のプレートである太平洋プレート、フィリピン海プレートが、陸のプレート（北米プレートやユーラシアプレート）の方へ1年あたり数cmの速度で動いており、陸のプレートの下に沈み込んでいます。このため、日本周辺では、複数のプレートによって複雑な力がかかっており、世界でも有数の地震多発地帯となっています。

（図3：日本付近のプレートの模式図）

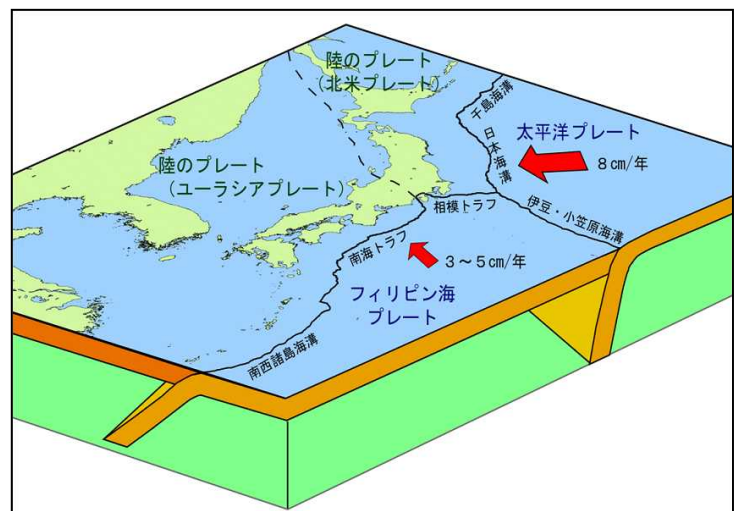


図3 日本付近のプレートの模式図